

# 水害発生時 利用者のいのちと安全を守る!!

## ～ 避難確保計画に関する講習会 ～ ニュースレター

この度は、避難確保計画に関する講習会へのご参加ありがとうございました。講習会は、12月20日（木）の前期と1月21日（月）の後期の2回に分けて、とかち広域消防局で開催しました。

ニュースレターは、前期・後期講習会の概要を整理したもので、特に後期講習会のワールドカフェ方式による意見交換における皆さんからの課題や対応策に関する意見をとりまとめたものです。

今後の避難確保計画の作成・見直しや大雨時の迅速な避難誘導に少しでも役立てて頂ければ幸いです。

### 前期講習会

平成30年  
**12月20日(木)**  
14:00～16:00

- ▶ 前期講習会には、帯広市内における洪水浸水想定区域内の対象施設（154施設）のうち、101施設100名（全体の約66%）の管理者及び所有者の方々が参加しました。
- ▶ 前期講習会では、北見工業大学の高橋清教授より避難確保計画作成の必要性について水害時の動画をまじえてお話頂いた後、気象情報の活用、十勝管内の水害リスク、水害対策と情報伝達の説明と合わせて、避難確保計画作成・見直しのポイントを説明しました。

### 前期講習会の様子



北見工業大学高橋教授の講話の様子



会場と各種説明の様子

### 後期講習会

平成31年  
**1月21日(月)**  
14:00～16:00

- ▶ 後期講習会には、帯広市内における浸水想定区域内の対象施設（154施設）のうち、79施設73名（全体の約51%）の管理者及び所有者の方々が参加しました。
- ▶ 前期講習会では、ワールドカフェ形式による意見交換を行いました。1テーブル5～6名で1ラウンドを20～30分として、第2ラウンドでメンバーチェンジを行い、他施設の参加者との活発な意見交換により、水害時の課題と対応策について情報共有を行いました。

### ワールドカフェの様子



①自己紹介からワールドカフェのスタート!



②課題や対応策についてみんなで意見交換!



③第2ラウンドで他のグループへ移動中!



④いいね! シールを貼って意見をとりまとめ!

### ★要配慮者利用施設の避難確保計画とは・・・

- ▶ 平成28年8月台風10号に伴う大雨では、小本川のはん濫に伴い、岩手県大泉町内の高齢者グループホームの1階が水没し、避難対応の遅れ等により、9名の高齢者の方々が亡くなりました。
- ▶ このような近年多発する大雨災害を踏まえて、平成29年6月の水防法改正では、洪水により浸水が想定される要配慮者利用施設の管理者及び所有者に対して、避難確保計画の作成及び訓練の実施が義務づけられ、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な訓練等について、次の事項を定めることになっています。

◆ 防災体制、情報収集及び伝達、洪水時の避難誘導（避難場所・経路・方法）、施設の整備、防災教育及び訓練の実施など



# 医療機関(病院)グループの意見(まとめ)

## 課題は何か

### 危機意識

- ・水害の想定ができない(50cmですむのか。避難訓練ができない)
- ・意識を持った訓練ができるのか
- ・水害の問題は改めて大変と認識した

### 施設環境

- ・地下に重要施設が多い
- ・調理場、ボイラーや非常電源がある
- ・電気(停電)が課題
- ・エレベーターが止まる
- ・非常用電源は3日間もつ構造だが水没はアウト
- ・1台の対応はありえない。複数台必要

### 人員体制

- ・人員不足(スタッフ不足)
- ・職員が集まらない
- ・災害時は自宅か職場どちらを選ぶ。自宅が優先
- ・夜勤の人手不足
- ・職員の高齢化。72時間までしか対応できない
- ・体制計画、各部署の意見とりまとめ

### 避難・移動手段

- ・入院患者の避難。患者は移動が困難
- ・基本的な考え方は「避難は困難」
- ・寝たきりやレスピ(人工呼吸器着用)の患者等
- ・浸水が何m以上なら必要なのか
- ・搬送車、専用車等の不足(車イス、ストレッチャ)
- ・停電時はエレベーターは使用できない
- ・寝たきり、人工呼吸の患者の移動方法
- ・患者のADL(日常生活活動度:移動手段)を把握
- ・思った以上に移動に時間がかかる

### 避難先・経路

- ・どこの避難所へ行けばよいのかわからない
- ・避難所の方が低い
- ・9Fなので上層階への避難となる
- ・重症者は他院への避難が必要
- ・2F以上は浸水しなければ病院内に留まる
- ・患者によっては病院でなければ設備的に死に至る
- ・洪水は流木で避難経路が閉鎖。避難できない

### 備蓄品・非常持出品

- ・備蓄品の情報(行政機関等)
- ・食料や生活用品が不足する可能性がある
- ・食料の確保

### 避難訓練

- ・病院全体での訓練は難しさがある
- ・患者さんと一緒にやる訓練は不可能

### その他

- ・洪水が発生してからでは遅い「避難」
- ・情報共有量が少ない。受入可能な病院情報ない
- ・担当者の連絡先・連絡網をオープンにする必要あり

## 対応策は何か

### 計画・マニュアル

- ・避難マニュアル、搬送マニュアルの作成
- ・防災計画の策定
- ・マニュアルに各部門のスタッフを参加させる

### 施設環境

- ・施設の強化。水没対策。2F以上の設備確認
- ・電気の確保が最重要課題。エレベーターの対策
- ・患者の避難よりも施設問題の方が難しい
- ・発電機、主要な設備等を上層階へ移動
- ・組立式ゴムがついている。止水板を利用
- ・ベッド配置スペース等の確保
- ・太陽光パネルは有効だが必要電力量から判断すると足りない

### 人員確保・体制構築

- ・マニュアルを作り、職場には来れる人が来る
- ・夜間/休日などの参集条件の徹底

### 避難先・タイミング、避難誘導・体制

- ・下手に動かない。垂直避難
- ・2F以上は入院患者が多い
- ・土地の低い場所を理解して高い場所へ移動する
- ・代替の搬送先を決めておく
- ・重症患者→厚生病院
- ・受入体制は各病院の医院長らの協議が必要
- ・EV(電源)確保の問題。規模が大きく安定している大病院が望ましい
- ・洪水も加えて議論が必要(現在は地震のみ)
- ・早目に上層階へ避難
- ・早いタイミングで少し他施設へ避難させる

### 利用者対策・連携協力

- ・外来診察(1・2階など)。早めの休診
- ・退院できる患者は退院してもらう
- ・病院間の連携
- ・避難して来た人達に手伝ってもらう
- ・地域とのコミュニケーションを日頃からとる
- ・元気なパートナーに手伝ってもらう
- ・避難場所となり、近隣住民に手伝ってもらう
- ・行政担当者の細かな対応可能な連絡先を把握

### 備蓄品・非常持出品

- ・アンビュー(手動人工換気器具)の用意
- ・日頃から想定し、食料なども確保(2~7日分)
- ・宇宙食がある

### 避難訓練

- ・大規模な訓練により、所要時間・人手・手間のシュミレーションを実施
- ・炊き出し訓練を実施済(地震・震度5・100名参加)
- ・近所と病院の協力の避難訓練(毎年)

### その他

- ・北電に電源車を依頼。予めできる対策を用意
- ・保健所の指導→リーダーになるとベスト
- ・行政担当者の細かな対応可能な連絡先を把握

# 福祉施設(高齢者・障がい者施設)グループの意見(まとめ)

## 課題は何か

### 危機意識

- ・利用者家族、受ける側の意識

### 施設環境

- ・施設が平屋。
- ・停電対応(水道、暖房)。エレベーターの停止。オール電化の停電。2階の人の移動が出来ない
- ・浸水対策。地下の自家発電やボイラーの浸水
- ・冷蔵庫、ガソリンなどの確保。

### 情報収集

- ・情報収集方法の確立が必要。広報車は聞こえない
- ・指示→命令。判断分かりやすい表現にしたい
- ・SNS等のデマに振り回されない

### 人員体制

- ・職員の参集基準(誰がいつ)。参集の優先順位
- ・家族の安全確保と施設への出勤の選択問題
- ・職員の集合経路の確保。本当に集まれるか
- ・夜間等、限られた職員での避難誘導。
- ・車椅子利用者や車両移動準備などに必要な時間・職員数の確保。スタッフの安全確保。残った職員の対応

### 避難判断・タイミング

- ・避難タイミング(夜・昼)時間との勝負(判断基準)
- ・車椅子利用者等を2Fへ移動させる判断・タイミング

### 避難先・経路、避難・移動手段

- ・避難先の水位が同じ。危険な川のそば
- ・夜間、歩けない人の移動。2階への移動(垂直)
- ・避難人数が多かった場合入れるか
- ・避難所にエレベーターが無い。避難通路の確保
- ・避難時の車が確保できない。車は洪滞が懸念
- ・上層階への移動方法(担架、車椅子、人員)

### 避難誘導・体制、連携協力

- ・職員のあせりが利用者へ伝染。冷静さの確保
- ・避難時の優先順位。日中と夜間の対応に違い
- ・避難先まで時間がかかる
- ・小中学校等、他事業者による誘導は可能か
- ・事前に家族に来てもらう。事業所・グループ間の連携

### 利用者周知・特性

- ・利用者(知的障害等)への伝達・協力的理解
- ・睡眠薬服用者の対応。高齢、車いす、身体が不自由、寝たきり、全盲、認知症の方などの避難誘導
- ・障がい者(多動)の方は、避難先・環境変化で混乱の恐れ
- ・認知症の方など、避難所に行くリスクもある
- ・利用者の状態が時間帯によって違う

### 連絡体制

- ・家族への連絡手段。連絡先は2~3件と多い方が良い
- ・スタッフへの周知・連絡手段
- ・公衆電話不通時の連絡方法(ブラックアウト時)

### 備蓄品・非常持出品

- ・避難バック(利用者の意識がいつまでも)
- ・尿とりパットみたいなもの
- ・自家発電、土のうはどれくらいあるか
- ・避難後の服薬の確保

### 避難後対応

- ・避難所で地域の方と利用者との住み分けが出来るか
- ・トラブルの発生。継続的な職員配置も難しい
- ・避難所で一般の方と一緒に過ごせるのか
- ・トイレがスロープのない和式で利用が難しい
- ・避難が長期になった時。薬の心配など
- ・避難先にエレベーターあるのか

## 対応策は何か

### 危機意識、計画・マニュアル

- ・水害なら意識があれば対応可能。防災意識の向上
- ・マニュアルの作成と判断基準が必要

### 施設・浸水対策

- ・重度の利用者は初めから高台にグループホームを建設

### 情報収集

- ・情報収集をかかさない(手段:ラジオ、市のホームページ)。早めに集めて、早めの行動

### 人員確保・体制構築

- ・職員の移住地(通勤時間・手段)、家族背景等を点数化。表を作成し、直ちに出勤する職員・人数等を決定
- ・連絡網は施設に近い順番で作成
- ・普段から来れる人を特定
- ・連絡が出来ない時の対応・基準を予め決めておく
- ・夜間帯の避難時は近所のスタッフがかかけつけ
- ・災害状況により参集を決定
- ・夜間、全体を見極めて指示総括できる指揮官が必要
- ・職員への指示内容の明確化
- ・職員の契約時に災害時の規定も必要

### 避難先・経路・タイミング、避難・移動手段

- ・洪水と地震で避難先を変える
- ・人数が多い場合、指定避難場所で収容困難な場合あり
- ・指定以外の施設を避難場所として設定
- ・他の事業所が協力できる体制作り
- ・指定避難場所の安全性(トイレ・段差の状況把握)
- ・垂直避難。2階があれば2階へ避難
- ・日中に系列施設に移動。夜間は垂直避難
- ・避難所のバリアフリー化(要望)
- ・避難ルートの複数化。渋滞前の輸送完了が必要
- ・早めの判断と行動。指示前に敵確に判断し避難
- ・指示から発災までの時間猶予が欲しい
- ・動ける利用者にも2F移動を手伝ってもらう
- ・早目のエレベーター、PHEV車は有効

### 連絡体制・利用者対策・連携協力

- ・問題点を事前に市と打合せ。市との仕組み作り
- ・事業所間の連携、近所への協力依頼、地域との協力
- ・他施設からの応援
- ・備蓄、避難場所(高層階)の連携
- ・定期的な意見交換会
- ・LINEでの連絡(ライングループ)を作っている
- ・家族に引取り協力の案内(事前の連絡先入手)
- ・家族へ連絡、引取り依頼。連絡先も複数聞いておく
- ・電話連絡、連絡網。夜間の連絡先・手段を具体化
- ・近い順距離、時間など

### 備蓄品・非常持出品

- ・日頃の備蓄、非常持出品の準備。一定期間毎に確認
- ・避難場所に備蓄を準備。1か所に集約
- ・非常食、薬、お薬手帳、電池、おむつ等を2階に備蓄
- ・個人の非常用バッグの準備。リュックに入れ玄関に
- ・ポータブルストーブ、発電機等の準備
- ・費用負担の問題。利用者の理解が必要
- ・土のうの代わりに尿とりパット
- ・民間倉庫などの利用を市役所で募集(民間との連携)
- ・薬の管理・持ち出し。個人管理の場合もある

### 避難訓練

- ・2Fへの移動訓練、非常招集の抜き打ち訓練の実施
- ・入居者全員の避難必要時間を把握しておくべき

# 教育機関(保育園・幼稚園)グループの意見(まとめ)

## 課題は何か

### 危機意識

- ・危機意識が薄い。職場も保護者も危機意識を持つ

### 洪水危険度

- ・建替えにより想定が変わった新たな計画が必要
- ・想定を超えるような水量の場合、2Fでも危険

### 人員体制

- ・低年齢(特に乳児)の避難支援に人員が必要
- ・人数が足りない。隣の施設まで先生の抱っこ
- ・大雨災害が差し迫る中、実際にどれだけの職員(大人)がつけるか不安である
- ・朝夕の職員が少ない時の対応が不安
- ・登園/降園/夜間の時間帯は特に職員数が少ない
- ・施設に来るまでの経路に危険はないのか

### 避難誘導・体制

- ・連れていく人手が足りない
- ・避難所まで1km、20分程度を要する。悪天候の中、小さい子と徒歩で避難所に向かうのは現実的ではない
- ・避難時に職員の動きを円滑にできるか不安である
- ・人数や出社状況から、職員の役割を固定化できない
- ・園児を安全に避難させられるか不安である

### 避難判断・タイミング

- ・市の情報など各自先を見通した判断が必要
- ・避難のタイミング、施設にとどまる、夜間の移動判断など、判断基準が難しい
- ・台風情報が発表されても、あらかじめ休園は少ない
- ・施設まで危険な場所があるため、開所/閉所の判断は必要だが難しい

### 避難先・経路

- ・老人福祉ホームに避難させてもらう予定
- ・指定避難所が少し遠い。全員つれて行くのは困難
- ・地震時と水害時の避難場所が異なる
- ・途中に大きい建物がなく、緊急避難に不安を感じる
- ・避難先までが危険。指定場所ではない方が良いかも
- ・避難所へ移動か、上層階へ移動か

### 避難・移動手段

- ・避難所までの移動手段は難しい(基本歩き)
- ・徒歩で乳児から年長まで安全に避難所まで行けるか
- ・乳児はバギー、1才児は多いため、歩いて避難
- ・0~2才児は散歩カー、3~5才児はカッパを着て移動
- ・原則的に徒歩を考えるが、車両での移動が現実的
- ・早めに迎えにくる意識付け

### 連絡体制

- ・アナログ(FAX回線)あり。黒電話で連絡とれた
- ・保護者への迎えの連絡タイミング。多いと時間かかる
- ・電話番号や職場の変更など、保護者の協力も必要
- ・保護者への連絡がつかない家族もある
- ・緊急に保護者と連絡を取れる体制や仕組みが必要
- ・一斉メールは送信のみ、既読確認不可

### その他

- ・情報をどうとっていくとよいのか
- ・園児の帰宅後にきちんと避難できるか心配
- ・備蓄食料の効果的なローリングストック方法
- ・周辺の施設との連携の取り方
- ・ブラックアウト時の電源確保

## 対応策は何か

### 危機意識、計画・マニュアル

- ・職員や保護者の危機意識を高める
- ・日頃から、水害時の早めのお迎えや天気情報を伝えるなど、保護者とコミュニケーションを図る
- ・避難計画やマニュアルは作成だけでなく、確認・見直しが大切。職員・パートに限らず全員の周知が必要

### 情報収集

- ・「避難勧告」を「避難して下さい」など、避難タイミングを的確に判断できる情報提供がほしい

### 人員確保・体制構築

- ・グループラインで職員へ連絡事項を伝達
- ・職員間はチャットワーク(クラウド会議室)を使用
- ・ホワイトボードに役割を記入。マグネットで貼って、必ず毎日確認(自分で把握、日々の意識)
- ・職員の役割分担。年齢毎の対応者を明確にしておく
- ・職員の訓練→職員間の連絡→職員へ動きの指示
- ・人の足りないところへの応援などの体制作り
- ・他クラスの補助の先生が応援に行く

### 避難先・タイミング、避難・移動手段

- ・情報を収集し、早めの判断
- ・近くの2階以上の建物など、近隣の民間施設に避難できる体制も検討(民間施設との協定締結)
- ・原則、避難所へ避難。天候や道路状況によって、隣の病院へ一時避難。状況に応じて柔軟に対応
- ・移動しない。移動が難しい。2階に避難
- ・注意の段階で避難しても良いのではないかと
- ・おんぶひも等の利用
- ・避難所が川向いため、ベビーカー不可。職員の車両

### 連絡体制・利用者対策・連携協力

- ・準備情報前の注意段階で保護者に電話、迎えを依頼
- ・悪天候の場合、朝の登所時に早めのお迎えをお願い。天候予測を注意喚起。都度プリントを渡す
- ・お迎え時の安全な子どもの引渡し(身分証明など)
- ・悪天候時の対応を事前に保護者へプリントで伝える
- ・帰る時、避難場所も知らせる
- ・災害によって避難先が違うことの保護者への周知
- ・一斉メール送信。受信確認、保護者の返信意識が必要。既読確認できるシステムあり
- ・LINE@、チャットワーク、ホームページ等、複数手段を用いて保護者との情報共有を図る
- ・サイト利用。小学校の登録システム ※個人情報課題
- ・災害用伝言板の使用も検討(事前練習が必要)
- ・緊急時のメーリングリストの整備。更新が課題
- ・事前に他施設と連絡をとっておく
- ・町内会や近隣の力を借りる。相互に助け合う

### 備蓄品・非常持出品

- ・備品の置き場所の共有
- ・備品の不足、消費期限の確認。避難食料を食べてみる
- ・ランタン、ポータブルストーブの準備
- ・食料、水(ペットボトル)、発電機、毛布の確保
- ・保育に必要な物品も合わせて運ぶ

### 避難訓練

- ・早朝、延長時、休日の避難訓練の実施、検証・改善
- ・避難の段階を知ることが大切(大人と子供の速さの差)
- ・一気に歩けないため、裏の老人ホームへの避難訓練を実施。1才児以上。カッパを着て逃げる
- ・年に数回、備蓄の消費訓練を実施(実際に食べる、テントを建てる、火をおこすなど)
- ・保護者に電話を入れる訓練を実施(職員含む)
- ・年1回カッパを着ての避難訓練(低年齢児含む)